

＜いばらに塞がれた種＞

マルコ 4 : 1 ~ 9

譬え話は伝達方法の一つ

イエス様は宣教を開始された直後は、律法を元に教えられた。しかし、ある時から譬えで教えるようになった。

- ・ 譬え話は、聞いた人々それぞれに「わかった」がある。同時に、「真理を隠す」効果もあった。
- ・ 神を信頼して生きようとする人と、自分の必要のために神を利用しようとする人とが、明確に区分された。

種まきの方法は、ムダを恐れないおおらかさがある。神のおおらかさがこの種まきの中にある。



◆神様は、実るか無駄になるか、そのような出来栄を考えて、私たちに関わるような方ではない。ムダが出ることを承知の上で、やがて実ることを信じて蒔き続けてくださっている。

【いばらに落ちた種】

- ・ 道端、岩地と違い「成長」した。
- ・ トゲのある低木類の総称
- ・ 最初の人アダムとエバが罪を犯した結果、生え出て来たもの

土地は、あなたのゆえにのろわれてしまった。あなたは、一生、苦しんで食を得なければならない。
土地は、あなたのために、いばらとあざみを生えさせ、あなたは、野の草を食べなければならない。

創世記 3 : 17, 18

◆人の心の中にみことばの成長をさまたげる「いばら」の存在がある。

この世の心遣い / 富の惑わし / その他いろいろな欲望

みことばを聞いてはいるが、世の心づかいや、富の惑わし、その他いろいろな欲望が入り込んで、みことばをふさぐので、実を結びません。【18、19節】

「マルタ、マルタ。あなたは、いろいろなことを心配して、気を使っています」ルカ 10 : 41

「心配して」は「世の心づかい」が語源。

金持ちになりたがる人たちは、誘惑とわなと、また人を滅びと破滅に投げ入れる、愚かで、有害な多くの欲とに陥ります。金銭を愛することが、あらゆる悪の根だからです。ある人たちは、金を追い求めたために、信仰から迷い出て、非常な苦痛をもって自分を刺し通しました。

I テモテ 6 : 9、10

イエス様の元へ、永遠のいのちを求めてやって来た金持ちの青年は求めたものを得ることが出来ずに、主の元を去った。

しもべは、ふたりの主人に仕えることはできません。あなたがたは、神にも仕え、また富にも仕えるということはできません。 マタイ 6 : 24

最大の防御は、神の恵みを知ること！

あなたがたの天の父は、それがみなあなたがたに必要であることを知っておらる。

だから、神の国とその義とをまず第一に求めなさい。そうすれば、それに加えて、

これらのものはすべて与えられます。 マタイ 6 : 31～33

◆クリスチャンは、神の御子イエスキリストの十字架の犠牲によって、子とされる特権をいただいた。この神の愛に裏打ちされたみことばに生きる時に、子を愛する父なる神の豊かさを知る。

私の神は、キリスト・イエスにあるご自身の栄光の富をもって、あなたがたの必要をすべて満たしてくださいます。 ピリピ 4 : 19